

2025 年 4 月 26 日

入院診療で抗微生物薬治療を受けられた患者さんへ

「AST(抗菌薬適正使用支援チーム)の介入方法の変更が抗微生物薬の使用状況および臨床転帰に与える影響の検討」に関する研究への協力をお願い

抗菌薬適正使用支援チームでは、過去に下記のような診療を受けた患者さんの試料・情報を用いた研究を行います。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

① 研究の対象

中部国際医療センターに入院された患者さんで、何らかの感染症が疑われて抗微生物薬を投与された患者さま

② 研究の期間

研究実施許可日～2028 年 12 月

③ 研究の目的

抗菌薬の不適切な使用は、薬剤耐性菌の出現や医療費の増大、副作用リスクの上昇など様々な問題を引き起こすことが広く知られています。この社会的課題に対応するため、各医療機関では抗菌薬適正使用支援チーム(AST)が設置されるようになりました。当院においても、感染症専門医、薬剤師からなる AST を組織し、抗菌薬適正使用の推進活動を実施してきました。しかしながら、AST の人的資源は限られており、効率的かつ効果的な介入方法の確立が課題となっていました。当院では抗菌薬適正使用を推進するため、AST による介入方法を段階的に変更してきました。しかし、これらの介入方法の効果の違いについては十分に検証されていません。本研究では、これらの介入方法の変更前後での抗菌薬使用状況や臨床転帰を比較検討することで、限られた医療資源の中でより効果的な AST 介入方法を明らかにし、抗菌薬適正使用の推進に貢献することを目的としています。

④ 研究の方法

本研究では、2018 年1月1日から 2025 年 3 月 30 日までに当院で抗微生物薬治療をされた入院患者を対象とし、抗菌薬適正使用支援チーム(AST)の介入方法の変更前後での抗微生物薬の使用状況と臨床転帰を検討します。調査項目としては、抗微生物薬投与状況(抗微生物薬の使用量・使用日数、適正使用率、De-escalation 実施率など)および患者情報や病原体情報(細菌培養結果と薬剤感受性)を収集します。研究デザインは後ろ向き観察研究であり、カルテ情報から必要なデータを抽出して解析を行う予定です。

⑤研究責任者

稲葉 正人 所属 中部国際医療センター 救急部門 感染症診療部

⑥共同研究者

安田 憲隆 所属 中部国際医療センター 薬剤部

研究への参加辞退をご希望される方へ

本研究に関して新たに患者様に行っていただくことはありません。また、ご自身に新たに費用が生じることもありません。本研究に関する質問等がありましたら、以下の連絡先までお問合せ下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて了承いただけない場合には、研究の対象といたしませんので、以下の連絡先まで申し出ていただけますようお願いいたします。なお、本研究は中部国際医療センター倫理審査委員会の承認を受け、中部国際医療センター病院長の実施許可を得ております。また、この研究への参加をお断りになった場合にも、将来にわたって当病院における診療・治療において不利益をこうむることはありません。

研究から生じる知的財産権の帰属と利益相反

研究者及び研究施設に帰属し、研究対象者には生じません。研究の結果の解釈に影響を及ぼすような「起こりうる利益相反」は存在しません。

連絡先

中部国際医療センター 救急部門 感染症診療部

電話番号 0574-66-1100

責任者氏名:稲葉 正人